研究でより回避的で新しい刺激パターンに慣れにくい子どもに対して，母親から承認される割合が高かったということと関連しているように思われる。

父親と子どものやりとりと子どもの気質の評定に関しては，回避的であると評定された子どもとの相互作用の方が，2者パートにおける父親からの働きかけのときに，親の承認がターンテイキングになる割合が高かった。つまり，父親が子どもを新しい場面になれにくいと認知しているために，より多くのやりとりを試み，子どもからの微かな反応を受け取って相互作用を続けようとした結果なのかもしれない。

子どもを回避的であると認知している場合には，父母ともに，積極的に子どもに対して承認を行ったり，やりとりが長く続きやすい，効果的な承認を行っていることが示された。つまり，回避的であると評価された子どもに対して，両親は子どもとの相互作用をよりリードして進めようとしている可能性が示唆された。

反応閾値については，敏感でないと評定された子どもと父親の相互作用の方が，2者パートでは子どもの働きかけの場合に承認がターンテイキングになる割合が高かった。このことと関連して，van den Boom. & Hoeksma(1994)は敏感な子どもを持つ母親と敏感でない子どもを持つ母親との親子相互作用を比較検討している。その結果，敏感な子どもを持つ母親においては，“効果的な刺激”ーすなわち，ポジティブな言葉がけや，遊びへの刺激，効果的な身体的刺激，愛情のこもった接触などーがより少なかったと報告されている。van der Boom et al(1994)は母親—子どもに関する知見であるが，本研究における父親ー子どもにおいても，同様の結果が示されたと考えられる。つまり，刺激に対してあまり敏感でないと父親自身に評定された子どもに対して，父親はより“効果的な”接触を行っており，相互のやり取りが長く続きやすいことが示された。すなわち，父親と子どもが相互作用を行ううえでは，父親が子どものことをよりおとなしく，扱いやすいと感じている方が，より長く続くやりとりを築きやすいという可能性が示唆された。

2．問題行動と CPICS 指標の関連について

2歳時点で，母親により多くの問題行動を報告された問題行動高群の子どもと親との相互作用では，3者パートの母ー子のやりとりで，子どもからの働きかけがターンテイキングになる割合が高くなっていた。また，3者パートにおける父ー子のやりとりでは，父親からの働きかけの場合，明確化の割合が高くなっていた。母親と子どもの相互作用では，問題行動がより多くみられるとされた子どもの方が，全体的にターンテイキングにつながりやすいと考えられ，父親と子どもの相互作用においては，問題行動がより多いとされる子どもとのやりとりでは明確化を行って父親の働きかけを明確化することが多いと考えられた。母親と子どもの相互作用において，問題行動をより多く報告されている子どもとの相互作用の方が全体的によ

り長くやりとりが続きやすいということについては，問題行動の評定は，母親の自己報告であるということを考慮しなければならない。客観的に問題とされる“問題行動”が少なくても，子どもの様子をよく観察している母親はより多くの行動を“問題行動”として評価している可能性が考えられる。子どものことをよく観察している母親は，子どものわずかなサインも見逃さずにキャッチしやすいとも考えられる。一つの可能性として，このような母親は育児不安が高く，子どもの小さな問題をより大きく捉えている可能性を排除できないため，今後は，その要因の一つとして，母親の育児に関する不安得点を考慮する必要があることが示唆された。

分離不安尺度と不安神経質尺度では，どちらも低群の方が２者パートで父親からの働きかけの場合に承認がターンテイキングになる割合，３者パートで母親から働きかけの場合に承認がターンテイキングになる割合が高かった。これらのことから，依存心や分離不安が高かったり，不安が高く神経質な子どもとのやりとりでは，親からの働きかけにおいて，承認がターンテイキングになる割合が低いことが示された。

CPICS のそれぞれの指標については，母ー子の２者パートで子どもからの働きかけの場合では，非言語的承認の割合が高い方が分離不安，不安神経質，睡眠食事と問題行動合計における得点が低かった。３者パートの父ー子のやりとりでは，非言語的承認の割合のより多い方が，注意や集中に関する問題行動が少なかった。母親と子どもの相互作用，父親と子どもの相互作用どちらにおいても，非言語的承認が多くなされた方が，子どもの問題行動を低減しやすいと考えられ，子どもの反応を親が承認することの大切さが示唆された。

また，３者パートで母ー子のやりとりがなされる場合，母親からの働きかけのときの承認がターンテイキングになる割合が高い方が，分離不安，不安神経質，睡眠食事と問題行動合計における得点が低く，父親と子どもの２者パートでの父親からの働きかけの場合も同様の結果となっていた。子どもが働きかけ，それに対して親から承認を与えられ，さらに子どもがそれを認知できるという長く続くやりとりが，子どもの不安などの内向的な問題を低めるためにも重要であることが示唆された。承認からターンテイキングにつながりやすいということは，親が子どもからの働きかけに対してより適切に反応を返すことによって，子どもが親の承認に対してより反応しやすくなり，結果としてターンテイキングにつながりやすくなったのではないかと考えられる。つまり，この場合，親は子どものペースに同調し，子どもからのサインの意味を受け止め，その情動状態に合わせて感度よく応答し，乳児にとって常に“心理的に利用しやすい状態”にいると考えられる。子どもにとっては，自分からの働きかけに対して母親から一貫して有益な応答が得られるということであり，このような場合，子どもは母親に対して基本的信頼感を築くことができる。このことはAinthworth, Blehar, Water,& Wall(1978)が述べている，母

親の情緒的応答性の高さと愛着パターンにおける安定型と関連しているように思われる。

まとめと今後の課題

今回分析を行ったのは10ケースであったということもあり，今後より多くのケースを分析していくことが必要である。また，日本でCPICSを用いた研究は皆無であり，今回の研究は探索的なものであった。今後の研究では，それぞれのCPICSの指標が持つ意味などを検討していくことは不可欠であり，それによってCPICSでみられる相互作用の質をより詳細に検討していくことできるようになると思われる。　さらに，子どもの気質と父－母－子の相互作用の関連についてより詳細に検討していくためには，子どもの気質の評定をより早期に行うことが必要であると考えられた。

引用文献

Ainsworth,M.D.S., Blehar,M.C., Waters,E., & Wall,S. (1978) Patterns of attachment: A Psychological study of the strange situation. Hillsdale,N.J. Erlbaum.

Bell, R.Q. (1979) Parent, child, and reciprocal influences. American Psychilogist, 34, 34-48. 勝浦範子(訳) 1981 親子相互作用　永野重史(監訳) 子どもの本性と児童問題（現代心理学1）　金子書房

Calkins S.D., Hungerford A. & Dedmom S.E. (2004) Mothers' interactions with temperamentally frustrated infants. Infant Mental Health Journal,25(3),219-239.

Corboz-Warnery,A.,Fivatz-Depeursinge, E.,Bettens,C.H., & Favez,N. (1993) Systematic analysis of father-mother-baby interactions: The Lausanne Triadic Play. Infant Mental Health Journal,14,298-316

Fullward, W., Mc Devit S.C., & Carey, W.B. (1984) Assesing temperament in one- to three- year-old children. Journal of Pediatric Psychology,9,205-217.

Hedenbro,M. & Liden, A. (2002) CPICS:Child and Parents' Interaction Coding System in Dyads and Triads. Acta Paediatrica,91 suppl 440,1-19.

Lewis, M. & Lee-Painters, S. (1974) An interactional approach to the mother-infant interaction. In M. Lewis. & L.A. Rosenblum (Eds.), The effects of the infant on its caregiver. Wiley

中田洋二郎，上林靖子，福井知美（1999）幼児の行動チェックリスト（CBCL/2-3）の日本語版作成に関する研究，小児の精神と神経，39，305-316.

大場実保子，村瀬聡美（印刷中）　CPICS（Child－Parents' Interaction Coding System）による，乳幼児期における父－母－子三者相互作用の検討(1)－親側の要因－，母子関係障害についての精神医学的・発達心理学的研究－母子関係障害解決・予防のための基礎研究－　平成17年度研究報告書

Sameroff, A.J. & Chandler,M.J. (1975) Reproductive risk and the continuum of caretaking causality. In F.D. Horovitz,M. Hetherington, S. Scarr-Salapatek & G. Signal (Eds.), Review of child development research. Vol.4. The University of Chicago Press

佐藤俊昭 (1990) 子どもの気質の追跡研究-第３報- １～２歳時の気質とその安定性 東北大学教養部紀要, 54, 318-295.
菅原ますみ，北村俊則，戸田まり，島悟，佐藤達哉，向井隆代 (1999) 子どもの問題行動の発達：Externalizing な問題傾向に関する生後 11 年間の縦断研究から 発達心理学研究，10(1)，32-45.
菅原ますみ，島悟，戸田まり，佐藤達哉，北村俊則 (1994) 乳幼児期に見られる行動特徴-日本語版 RITQ および TTS の検討- 教育心理学研究，42(3)，315-323.
Thomas, M.A., Ebelbrock C. & Catherine, T.H. (1987) Empirically Based Assessment of the Behavioral/Emotional Problems of 2-and 3- Year-Old Children. Journal of Abnormal Child Psychology,15(4),629-650.
Thomas,A. & Chess,S. (1963) Behavioral individuality in childhood. New York University Press.
van den Boom,D.C., & Hoeksma,J.B. (1994) The effect of infant irritability on mother-infant interaction: A growth-curve analysis. Developmental Psychology,30,581-590.
von Klitzing,K., Simoni,H., Amsler,F. & Burgin,D. (1999) The role of the father in early family interactions. Infant Mental Health Journal, 20(3),222-237.
吉田弘道，野尻恵，安藤朗子，小林真理子 (1997a) 育児における父親の役割と父親の援助に関する研究 その１：子どもの心理的問題と父親の役割との関連性 小児保健研究 56（1），20－26
吉田弘道，野尻恵，安藤朗子，小林真理子 (1997b) 育児における父親の役割と父親への援助に関する研究 その２：父－母－子三者関係と父親の役割との関連性について 小児保健研究 56（1），27－33

体外受精による妊娠で出産した母親の抑うつと子どもの問題行動について

分担研究者　　板倉　敦夫　　埼玉医科大学・産婦人科教授

研究要旨　EPDS で測定した出産 3 年後の抑うつ尺度は、体外受精妊娠の母親では、自然妊娠の母親に比べて、有意に陽性率が高かった。子どもの問題行動リストでは、睡眠・食事尺度、外向尺度、総得点に自然妊娠の子どもに比べ有意差がみられた。体外受精で出産した母親と子どもの発育・発達に対して、長期的なフォローアップが必要であると考えられた。

A．研究目的

体外受精による出産例は、全国で年間 10,000 例にもおよび、不妊カップルに福音をもたらしていることは明白であるが、生児獲得までの経済的・心理的負担は大きく、また体外受精を特別視する風土がまだ存在しているため、体外受精を行ったことに対する母親の心理的影響は育児にも少なからず与えていると考えられる。また体外受精は妊娠率向上を目指すために多胎妊娠率が自然妊娠より高く、早期産・未熟児を生み出す結果となっており、このような点からも、長期的予後の解析は多角的かつ詳細に検討されるべきである。母親の精神的健康と児の発育・発達を検討することは、今後の不妊治療の治療方針策定の際の重要なエビデンスとなり、体外受精による妊娠であることが児の発育・発達にどのような影響を与えるかを解明することによって児の健全な心理的発達に資することができる。

B．研究方法

被調査者　臨床群は中部地方の不妊治療クリニックで体外受精を受け出産し子どもが 3 歳となり、質問紙への協力を承諾した女性とその子ども 56 名であった．正常サンプルは大学病院で出産した女性とその子どもである。協力依頼に際しては，文書での説明を行った．

(a)測定尺度として産褥うつ病の評価　Cox (1987)による産褥うつ病のスクリーニングを目的としたエジンバラ産褥うつ病自己評価票（EPDS）の日本語版（岡野ら 1996）を用いた．子どもの問題行動リストは CBCL を用いた．

C．研究結果

体外受精によって出産した母親の EPDS 9 点以上（スクリーニング陽性）は 8.5%と自然妊娠の 2.0%と比較して有意に多く見られた。母親愛着尺度・育児ストレスについては有意差がみられなかった。

CBCL で得られた依存分離尺度、引きこもり尺度、不安神経質尺度、発達尺度、男児・女児攻撃尺度、注意集中尺度、反抗尺度、その他の項目、内向尺度には、両群間に差は見られなかったが、睡眠・食事尺度、外向尺度、総得点には体外受精による子どもが有意に高かった。

CBCL で得られた依存分離尺度、引きこもり尺

D．考察

日本版エジンバラ産褥うつ病調査票 EPDS, CBCL の信頼性とスクリーニングに用いる場合の妥当性については、すでに報告されている。

体外受精による妊娠で出産は、自然妊娠に比べ出産後 3 年の時点で抑うつ陽性者が有意に多くみられ、また体外受精によって出産した子どもに問題行動リスト上、一部有意差がみられた。この理由として、懸念されていた妊娠までの経済的・心理的ストレスや、体外受精と特別視する環境、および出生後 NICU に入院するなどの早期産や出生時の諸問題によって、その後の発育にも影響を与えている可能性がある。今後は、サンプル数を増やして、母体年齢や多胎などを因子を除外して、体外受精そのものが、これら結果に影響しているかどうかを検討する必要がある。またフォローアップが必要なハイリスクの母親、子どもを見つけ出すためのスクリーニング検査をどの時点で行うか、体外受精であることを特別視することなく、フォローアップする体制を築くことが必要であると考えた。

E．結論

体外受精で分娩した母親の精神的健康を長期にサポートする体制や出生した子どもの発育・発達に対して、長期的なフォローアップが必要であると考えられた。

F．健康危険情報

研究協力に対しては，倫理委員会承認のもと文書にて同意を得た．人権及び利益の保護の取扱いについては問題がない。

G．研究発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

なし

研究成果の刊行に関する一覧表

1. 論文発表

Nagata,M., Nagai,Y., Sobajima,H., Ando,T. and Honjo,S. (2004) Depression in the early postpartum period and attachment to children－in mothers of NICU infants. Infant and Child Development, 13 ; 93-110.

Honjo Shuji., Arai Shiori., Kaneko Hitoshi., Ujiie Tatsuo., Murase Satomi., Sechiyama Haya., Sasaki Yasuko., Hatagaki Chie., Inagaki Eri., Usui Motoko., Miwa Kikuko., Ishihara Michie., Hashimoto Ohiko., Nomura Kenji., Itakura Atsuo., & Inoko Kayo. Antenatal depression and maternal fetal attachment. *Psychopathology* 36; 304-311.

Honjo Shuji., Sasaki Yasuko., Kaneko Hitoshi., Tachibana Kota., Murase Satomi., Ishii Takashi., Nishide Yumie., & Nishide Takanori. 2003 Study on feelings of school avoidance, depression, and character tendencies among generel junior high and high school students. *Pcyshiatry and Clinical Neurosciences*, 57, 464-471.

Nagata M, Nagai Y, Sobajima H, Ando T, Honjo S. 2003 Depression in the mother and maternal attachment--results from a follow-up study at 1 year postpartum. Psychopathology. 2003 May-Jun;36(3):142-51.

Murase S, Ochiai S, Ueyama M, Honjo S, Ohta T. 2004 Psychiatric features of seriously life-threatening suicide attempters: a clinical study from a general hospital in Japan. J Psychosom Res. 2003 Oct;55(4):379-83.

Shuji Honjo, Rie Mizuno, Haya Sechiayama, Yasuko Sasaki, Hitoshi Kaneko, Takanori Nishide, Masako Nagata, Hisanori Sobajima, Yukiyo Nagai, Tsunesaburo Ando, & Yumie Nishide 2002 Temperament of Low Birth Weight Infants and Child-Rearing Stress: Comparison with full-term healthy infants. Early Child Development and Care, 172, 65-75.

Honjo Shuji, Sasaki Yasuko, Murase Satomi, Kaneko Hitoshi, Nomura Kenji. 2005 Transient eating disorder in early childhood: A case report. European Child & Adolescent Psychiatry. 14(1) 52-54.

Murase Satomi, Ochiai Shisei, Ueyama Masashi, Honjo Shuji, Kaneko Hitoshi, Arai Shiori, Murakami Takashi, Nomura Kenji, Hashimoto Ohiko, & Ohta Tatsuo 2006 The clinical characteristics of serious adolescent suicide-attempters in Japan. Japanese Journal of Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (in press)

Sasaki Y, Mizuno R,Kaneko H, Murase S, & Honjo S: 2006 Application of the Revised Infant Temperament Questionnaire for evaluating temperament in the Japanese infant. Psychiatry and Clinical Neurosciences, 60, 9-17.

村瀬聡美、尾崎紀夫（印刷中）、妊娠・出産期の精神科薬物療法. 稲田俊也、尾崎紀夫、伊豫雅臣（編）精神疾患の薬物療法ガイド、星和書店、東京

萩野聡子・村瀬聡美・金子一史・荒井紫織・佐々木靖子・瀬地山葉矢・石原美智恵・本城秀次　2006　妊娠期における父親・母親の抑うつと胎児への愛着との関連　児童青年精神医学とその近接領域，47，29-37.

金子一史（2004）、妊婦および褥婦のメンタルヘルス. 後藤節子、森田せつ子（編）テキスト母性看護、名古屋大学出版会　Pp284-287.

金子一史　2005　就学前教育に対する側面からの支援―巡回相談―　こころの科学124　日本評論社　Pp30-34.

村瀬聡美（2004）、精神神経疾患合併妊娠. 後藤節子、森田せつ子（編）テキスト母性看護、名古屋大学出版会　Pp280-283.

金子一史、本城秀次、村瀬聡美、野邑健二（2004）母親から子どもへの愛着形成―心理社会的検討―　小児科臨床　57:1273-1279

金子一史、本城秀次　(2004)　周産期精神医学における乳児の役割.臨床精神医学、33; 997-1002.

本城秀次、村瀬聡美、金子一史、荒井紫織、橋本大彦、野邑健二（2004）、乳幼児期からの家族支援　精神神経学雑誌　106(5):602-607

金子一史・本城秀次・村瀬聡美・氏家達夫・瀬地山葉矢・佐々木靖子・荒井紫織・石原美智恵・畠垣智恵・稲垣恵里・三輪紀久子・笛吹素子・田中奈美子・小林佐知子・雑賀美希子・溝口美鈴・内藤和代・上杉春香・野邑健二　2003　妊娠産褥期のメンタルヘルスと妊産婦研究　心理臨床-名古屋大学心理発達相談室紀要-，19,

15-20.

金子一史・野邑健二・村瀬聡美・本城秀次　2003　周産期におけるメンタルヘルス　現代医学，51，29-33.

瀬地山葉矢、佐々木靖子、金子一史、村瀬聡美、本城秀次（2003）愛着とAdult Attachment Interview.精神科診断学、14;19-28.

本城秀次（2003）乳幼児の行動評価―Zero to Threeの臨床への応用.精神療法、29;543-550.

佐々木靖子、瀬地山葉矢、本城秀次（2003）Adult Attachment Interviewに関する予備的検討―日本の妊婦と青年女子の比較から―.名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（心理発達科学）、50,195-205.

氏家達夫　2003　子どもの自律性を育てるしつけ――子どもの発達と個性に応じたしつけとは(特集 叱るしつけ・ほめるしつけ)　児童心理

2. 学会発表

国際学会

Kaneko Hitoshi., Sechiyama Haya., Sasaki Yasuko., Arai Shiori., Ishihara Michie., Hatagaki Chie., Inagaki Eri., Usui　Motoko., Miwa Kikuko., Kobayashi Sachiko., Tanaka Namiko., Saiga Mikiko., Mizoguchi Misuzu., Naitou Kazuyo., Uesugi Haruka., Itakura Atsuo., Murase Satomi., Ujiie Tatsuo., Nomura Kenji., & Honjo Shuji.　2004 January,　Depression Symptomatolosy and Maternal Attachment in Japanese Women During Pregnancy and Postpartum. World Association for Infant Mental Health 9th World Congress, Melbourne, Australia.

Hamada Shoko, Murase Satomi, Murakami Takashi, Kaneko Hitoshi, Honjo Shuji. The Effects of Parental Child-rearing Attitude on Children's Nervous Habits-Mediated by Anxiety and Depression. 2005 18th World Congress on Psychosomatic Medicine, Kobe, Japan.

Kaneko Hitoshi., Shuji Honjo., Ujiie Tastuo., Murase Satomi., Nomura Kenji., Sasaki Yasuko., & Shiori Arai. 2004 August, Maternal Attachmnet in

Japanese Women Dring Pregnancy and one month after delivery. 16th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions, Berlin, Germany.

Kaneko, H., Sechiyama, H., Sasaki, Y., Arai, S., Ishiahara, M., Hatagaki, C., Nishiwaki, K., Takeuchi, Y., Inagaki, E., Usui, M., Miwa, K., Honjo, S., Ujiie, T., Murase, S., Inoko, K., Itakura, A. 2002.7 DEPRESSION TENDENCY DURING PREGNANCY AND THE POSTPARTUM. World Association for Infant Mental Health (Amsterdam, Netherlands).

Hitoshi Kaneko, Haya Sechiyama, Yasuko Sasaki, Satomi Murase, Kayo Inoko. 2002.8 Psychological variables related to depression during pregnancy and after childbirth. XII World Congress of psychiatry (Yokohama, Japan).

Hitoshi Kaneko, Haya Sechiyama, Yasuko Sasaki, Yukina Hane, Shiori Arai, Michie Ishihara, Moyuko Nishimura, Eri Okochi, Mie Sasaki, Eichiro Suzuki, Shuji Honjo, M.D., Kayo Inoko, M.D., Atsuo Itakura, M.D. 2000.7 The relationship between depression in pregnancy and after childbirth. World Association for Infant Mental Health (Montreal, Canada).

Eri Okochi, Haya Sechiyama, Yasuko Sasaki, Yukina Hane, Hitoshi Kaneko, Shiori Arai, Michie Ishihara, Moyuko Nishimura, Hisayo Hosono, Mari Esaki, Shuji Honjo, Kayo Inoko, Atsuo Itakura. 2000.7 The relationship between the mother's axuumption about their infant temperament before their childbirth and the actual temperament. World Association for Infant Mental Health (Montreal, Canada).

Moyuko Nishimura, Haya Sechiyama, Yasuko Sasaki, Yukina Hane, Hitoshi Kaneko, Shiori Arai, Michie Ishihara, Eri Okochi, Shuji Honjo, Kayo Inoko, Atsuo Itakura. 2000.7 Factors related to depression in early pregnancy. World Association for Infant Mental Health (Montreal, Canada).

Hitoshi Kaneko, Haya Sechiyama, Yasuko Sasaki, Shiori Arai, Michie Ishihara, Yukina Hane, Moyuko Nishimura, Shuji Honjo,M.D., Kayo Inoko, M.D., Atsuo Itakura, M.D. 1999.5 Depressive tendencies during pregnancy and the factors involved. Asian society for child and adolesent psychiatry and allied professions (Seoul,Korea).

Haya Sechiyama, Yasuko sasaki, Hitoshi Kaneko, Hideaki Matsushima, Meirong Zhang, Shuji Honjo, Masako Nagata, Yukiyo Nagai,M.D., Hisanori

Sobajima,M.D. Tsunesaburo Ando,M.D. 1999.5 Mothers' mental representation of childhood and infant-mother attachment experiencys. Asian society for child and adolesent psychiatry and allied professions (Seoul,Korea).

国内学会

冨田 康之、武藤 裕紀、富田 真紀子、金井 篤子、村瀬 聡美、尾崎 紀夫、後藤 節子、本多 裕之　Fuzzy Neural Network を用いた妊娠期うつ病に対する影響要因解析　第71回化学工学会　2006年3月29日　東京

本城秀次　2005　妊娠、産褥期の抑うつと子どもに対する愛着　第２回子どものメンタルヘルス関連合同医学会シンポジウム

田中裕子・田中伸明・丸山笑里佳・大場実保子・岡田香織・川口さよ・崔玲・二ノ宮正恵・村瀬聡美・金子一史・本城秀次　2005　妊娠・出産期のアレキシサイミア傾向と愛着との関連について　－抑うつの影響を統制して－　第15回乳幼児医学・心理学会

村田英和・丸山笑里佳・田中伸明・田中裕子・野邑健二・橋本大彦・佐々木靖子・荒井紫織・金子一史・村瀬聡美・本城秀次　2005　乳幼児の気質と母親の愛着と抑うつに関する検討　第46回日本児童青年精神医学会総会

金子一史　2005　親の発達という視点から見た子育て支援のあり方について　第２回子どものメンタルヘルス関連合同医学会　シンポジスト

金子一史　2004　周産期のメンタルヘルスと母親から子どもへの愛着　第45回日本児童青年精神医学会総会　学会企画シンポジウム「乳幼児精神医学」シンポジスト

丸山笑里佳・小林佐知子・雑賀美希子・金子一史・本城秀次・村瀬聡美・佐々木靖子・荒井紫織・野邑健二・中谷奈美子・瀬地山葉矢・石原美智恵・板倉敦夫　2004　妊娠期のうつ病におけるEPDSの感度と特異度についての分析　第13回日本乳幼児医学・心理学会

荻野聡子・伊藤里実・梅村祐子・北川朋子・山口栄・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・金子一史・荒井紫織・佐々木靖子・石原美智恵・板倉敦夫・野邑健二　2004　妊娠期の妻を持つ夫の抑うつと愛着　第45回日本児童青年精神医学会総会

佐々木靖子・瀬地山葉矢・金子一史・本城秀次　2004　妊婦の愛着対象と周産期の抑うつ傾向との関連　日本心理臨床学会第23回大会

金子一史・小塩真司・中谷素之・瀬地山葉矢・佐々木靖子・本城秀次　2003　妊娠産褥期における精神的回復力　日本心理学会第67回大会発表論文集,

佐々木靖子・金子一史・荒井紫織・畠垣智恵・稲垣恵里・笛吹素子・三輪紀久子・上杉春香・小林佐知子・雑賀美希子・田中奈美子・内藤和代・溝口美鈴・本城秀次・瀬地山葉矢・石原美智恵・板倉敦夫　2003　妊婦のAdult Attachment Interviewと抑うつ傾向との関連(2)　第13回日本乳幼児医学・心理学会

小林佐知子・本城 秀次・氏家 達夫・村瀬 聡美・金子 一史・荒井 紫織・佐々木 靖子・瀬地山 葉矢・畠垣 智恵・稲垣 恵理・三輪 紀久子・笛吹 素子・雑賀 美希子・内藤 和代・上杉 春香・田中奈美子・溝口 美鈴・石原 美知恵・野邑 健二・板倉 敦夫　2003　妊娠期における母親の子どもへの愛着と抑うつおよび内的ワーキングモデルとの関連　第44回日本児童青年精神医学会総会

溝口美鈴・佐々木靖子・畠垣智恵・稲垣恵里・三輪紀久子・笛吹素子・上杉春香・小林佐知子・雑賀美希子・田中奈美子・内藤和代・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・瀬地山葉矢・猪子香代・板倉敦夫・野邑健二・橋本大彦　2003　妊娠期・産後の母親の子どもへの愛着と子どもの気質との関連について　第13回日本乳幼児医学・心理学会

笛吹素子・佐々木靖子・瀬地山葉矢・畠垣智恵・稲垣恵里・三輪紀久子・上杉春香・小林佐知子・田中奈美子・内藤和代・溝口美鈴・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・猪子香代・板倉敦夫・野邑健二　2002　産褥期の母親の新生児に対する愛着について　第12回日本乳幼児医学・心理学会

三輪紀久子・瀬地山葉矢・佐々木靖子・畠垣智恵・稲垣恵里・笛吹素子・小林佐知子・田中奈美子・内藤和代・溝口美鈴・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・猪子香代・板倉敦夫・野邑健二・橋本大彦　2002　ハイリスク外来を受診する妊婦の抑うつ・不安とサポートについて -妊娠中期から産後１ヶ月にかけて- 第43回日本児童青年精神医学会総会

竹内良恵・西脇喜恵子・金子一史・佐々木靖子・瀬地山葉矢・畠垣智恵・稲垣恵里・笛吹素子・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・荒井紫織・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫　2001　妊婦・産褥期および正誤１ヶ月の抑うつ感・愛着の実感　第11回日本乳幼児医学・心理学会

稲垣恵里・金子一史・佐々木靖子・瀬地山葉矢・畠垣智恵・西脇喜恵子・竹内良恵・三輪喜久子・本城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・荒井紫織・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫　2001　生後１ヶ月時の乳児の気質と母親の抑うつ・愛着との関連につ

いて　第11回日本乳幼児医学・心理学会

佐々木美恵・高城絵里子・鈴木英一郎・瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・荒井紫織・大河内絵里・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫　2000　妊娠後期・出産直後における母子間の愛着関係と関連する要因について　第41回日本児童青年精神医学会総会

高城絵里子・鈴木英一郎・佐々木美恵・瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・荒井紫織・大河内絵里・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫　2000　妊娠中期の妊婦における抑うつと赤ちゃんイメージとの関連　第41回日本児童青年精神医学会総会

鈴木英一郎・佐々木美恵・高城絵里子・瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・荒井紫織・大河内絵里・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫　2000　抑うつ尺度の因子構造について-妊娠中期・後期・産褥期での比較-　第41回日本児童青年精神医学会総会

佐々木靖子・瀬地山葉矢・金子一史・羽根由紀奈・荒井紫織・大河内絵里・高城絵里子・佐々木美恵・鈴木英一郎・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・石原美智恵　2000　妊婦のAdult Attachment Interviewと抑うつ傾向との関連　乳幼児医学・心理学会第10回大会

畠垣智恵・竹内良恵・西脇喜恵子・瀬地山葉矢・佐々木靖子・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・大河内絵里・佐々木美恵・鈴木英一郎・高城絵里子・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・板倉敦夫　2000　周産期における抑うつ感情の変動とそれに関連する要因について　乳幼児医学・心理学会第10回大会

西脇喜恵子・竹内良恵・金子一史・佐々木靖子・瀬地山葉矢・畠垣智恵・稲垣恵里・笛吹素子・本城秀次・村瀬聡美・荒井紫織・猪子香代・石原美智恵・板倉敦夫　2001　胎児を喪失した妊婦の次子出産に対する不安について　第42回日本児童青年精神医学会総会

荒井紫織・瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・石原美智恵・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・板倉敦夫　1999　妊娠中の抑うつ傾向とそれに関連する要因　第40回日本児童青年精神医学会総会

西村もゆ子・瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・大河内絵里・鈴木英一郎・細野久容・本城秀次・猪子香代・板倉敦夫　1999　妊婦の抑うつとそれに関連する要因についての研究　乳幼児医学・心理学会第９回大会

瀬地山葉矢・佐々木靖子・羽根由紀奈・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・西村もゆ子・本城秀次・猪子香代・板倉敦夫　1999　Adult Attachment Interviewと胎児への愛着，夫婦関係との関連　乳幼児医学・心理学会第９回大会

佐々木靖子・瀬地山葉矢・金子一史・荒井紫織・石原美智恵・本城秀次　2000　ＩＷＭと対人関係の認識および親への愛着の回想―妊婦・青年のＡＡＩより―　発達心理学会第11回大会

瀬地山葉矢・佐々木靖子・金子一史・松島秀明・戸田和代・張美蓉・本城秀次・永田雅子・永井幸代・側島久典・安藤恒三郎　1998　母親の愛着経験と母子関係～Strange SituationとAdult Attachment Interviewとの関連を中心に　乳幼児医学・心理学研究，7，55.